

Dialog

世田谷区民合唱団 会報 Vol. 169

2024年4号、2025年3月発行



フォーレ「レクイエム」

ベートーヴェン「レオノーレ」序曲第3番

交響曲第5番「運命」

指揮 佐藤宏充

ソプラノ 藤井冨 バリトン 藪内俊弥

世田谷フィルハーモニー管弦楽団

世田谷区民合唱団

合唱指導 坂本秀明

せたがや
名曲コンサート

FAURÉ REQUIEM

2.23

2025

SUN 14:00開演(13:15開場) 昭和女子大学 人見記念講堂



皆様、お疲れさまでした。

「フォーレ レクイエム」に1年以上取り組んで、歌い終わって如何でしたでしょうか。夫々の想いは参加者の数だけあるかと思います。満足感と反省点の入り混じった複雑な思いも、今後に繋げていく動機づけになれば幸いです。

今回はコロナ禍を経て名曲コンサートも三回目を数える回数になり、コロナ明け初回の「ドイツレクイエム」の実施準備の緊張感と、終わった後の安堵感を考えると隔世の感があり、演奏会終了後も2週間程度は高枕で熟睡は叶わない状態でしたが、三回目を迎えたこの時期になってようやく一区切りでしょうか。

折角の機会なので、名曲コンサートの成り立ちと経緯についてお話しさせていただきます。

1980年代後半から世の中は第九ブームで、「年末に第九を歌うのが当たり前」状態で、大げさに言えばテレビから第九の演奏が聞こえてこない日は無い程でした。世田谷区もこの時流に乗り区民から参加者を募り、1987年に「世田谷区第九を歌う区民の会」を設立し、12月に人見講堂で演奏会が行われました。これが名曲コンサートの初回になります。この時の出演者数は461名で人見の山台は満員電車状態だったでしょう。翌年の1988年も世田谷区の主催で12月に行われ、これを母体として1989年(平成元年)に世田谷区民合唱団が創立されました。合唱団は1990年に第1回定期演奏会を、第2回は一年空いて1992年に開催され、それ以降は毎年の開催になりました。一方で「第九演奏会」は定期演奏会とは別に、世田谷区の主催行事として毎年12月に開催されてました。従いまして、名曲コンサートはほんの少し合唱団の歴史よりも長く、回数も多いことになります。



私が初めて参加したのは2回目の1988年で、合唱指導は辻正幸先生、指揮は松尾葉子先生、ソプラノ三縄みどり、アルト野村陽子、テノール近藤伸政、バス栗林義信といった贅沢なメンバーでした。この時の出演者数は360名です。もちろん合唱は初体験でオーケストラとの共演も初めて。初めて尽くしの中、合唱の魅力にドブプリとはまり込んでしまい、翌年の世田谷区民合唱団設立と同時に入団して現在に至ってます。合唱団設立年の1989年12月の第九演奏会出演者は289名で、この時の様子がテレホンカードとして残っており壮観な様子が窺えます。初回はこれよりも180人多かった訳で、満員電車もビックリ！！。このテレホンカードは常時携帯していますので、ご希望があれば何時でもお見せいたします。未使用で歴史的価値と合わさって高額な値が付くかも。

それ以降「世田谷区民コンサート」「世田谷区民による第九コンサート」として毎年12月に行ってきました。転機が訪れたのは2000年(平成12年)で、「第九」の連続開催はここで途切れることになり、翌年からはオーケストラ付の合唱曲を幅広く取り上げる方針に転換されました。所謂「第九」ブームの終焉です。それでも「世田谷区民コンサート」としての演奏会は継続され、「第九」は隔年開催が基本となりました。

2004年から「せたがや文化財団音楽事業部」に主催が移り、名前も「ニューイヤークラシックコンサート」になり、開催時期も1月に移行されました。

「名曲コンサート」となったのは2010年からで、開催時期を2月に移行させたためです。そして主催が「名曲コンサート実行委員会」になったのが2014年で、以降現在まで継続しています。以上の様に名曲コンサートは区民合唱団の主催演奏会では無いことがお分かりいただけるかと思います。

この実行委員会は「せたがや文化財団音楽事業部」「世田谷フィルハーモニー交響楽団」「世田谷区民合唱団」の三団体で構成され、現在は各団体から派遣された合計9名の人員で運営されています。合唱団からは運営副委員長2名と一般団員代表の3名が参加しています。実行委員会に派遣する人選は運営委員会で決めています。実行委員会と運営委員会の橋渡し役として副委員長、団員の代表として一般団員から、を主旨として計3名の派遣を決めています。

私神保は一般団員の代表としての資格で参加しており、運営委員長として参加している訳ではありません。毎年、運営委員会からの要請によりお引き受けして携わっております。名曲コンサートに関する各種お知らせや、人見の指揮台等で確認事項のアナウンスをしているのは実行委員としての業務であり、運営委員長として行っているわけではありませんので誤解なきようお願い致します。ここで皆様からは疑問が生じると思います。団員の代表を選んだ覚えも選考の投票もしていない、そんな周知はされていない。“何故神保なんだ”と言う声が聞こえてきそうです。団から実行委員を派遣するために当時の副委員長から就任の打診があり、“お前さんは今なにも役をしていないから引き受けろ”とのことでした。それが現在に至ってます。

名曲に携わるメンバーでフィルの3名は変わっていません。音楽事業部は人事異動で変わる場合もありますが、現在は異動がありません。合唱団は副委員長が数年で交代してしまうので、合唱団としての意向の継続性維持の観点からは、ある程度長期的に携わる人選が必要と考えます。

でも、交代の時期が迫っていると考えます。何方か名乗りを上げて下さい。

(第九の参加人数は記念誌から引用)



「写真提供：フォトライフ」





暗譜で歌ったレクイエム、お疲れ様でした！

音楽監督:坂本秀明

皆様、名曲コンサートお疲れ様でした。私は本番、客席の中央で聴かせて頂きました。一人一人本当によく頑張ってお歌って下さいました。ピアノ一台のアンサンブルからフルオーケストラのアンサンブルに変わり、この変化に対応できるかどうか、最初のオケ合わせはハラハラしましたが、暗譜された皆さんは佐藤先生の棒をしっかりと捕らえる事ができていたので、コーラスは大きく崩れることはありませんでした。そしてゲネプロ、本番とオケの皆さんも完成度を上げてくださったので演奏、素晴らしかったです。

佐藤先生の初回のレッスンで、「暗譜される意気込みがあるなら、エキストラを入れないでも大丈夫でしょう」とのお言葉を頂き、それに皆さんが応えて頑張ってくださいました。きめ細やかなレッスンでレベルを上げてくださった佐藤先生に感謝いたします。

定期演奏会から約5ヶ月、名曲コンサートは、一人ずつオーディションをするか、又は暗譜で歌うかのどちらかにしようかと提案して、暗譜という方針に決定いたしました。この決断は非常に勇気のいるものでした。

決断に至った理由のひとつに、(レッスン中にも何度かお話させて頂きましたが)故・小澤征爾氏が2005年に広島平和コンサートで行われたフォーレのレクイエムのYouTubeを見たことがあります。このコンサートでは広島市民の方々、約400名が全員、暗譜で歌っていたのです(ソプラノは中国の歌手、バリトンソロはなんとアメリカの歌手でした)。コーラスの面々がテレビカメラに写し出された時、見たことのある方々が写りました。それは今年ノーベル平和賞を授賞された原爆被団協の方々でした(20年前の)。広島の方々の心のこもった暗譜の演奏に感動を覚え、私たちにできないはずはないと思ったのです。この決断に応えてくださった皆様、特に運営委員長の神保さん、副委員長の鈴木マリさん、末永さん、演奏委員長の菊地さん、そして各パートリーダーの皆様、御協力ありがとうございました。この場をお借りして御礼させていただきます。

暗譜は本当に大変だった事と思います。その努力が実り、本番は全員が堂々と人見記念講堂の大きな空間を感じ、指揮者を視界に入れて二階席に向かって真剣に演奏されていました。その姿は頼もしく、誇らしいものでした。演奏上の小さなミスはありましたが、皆さんの熱意がそれを帳消しにしていました。

演奏が終わってお客様の大きな拍手の中、私も熱い拍手を送っていたら、アンコールでステージに上がるタイミングが遅れてしまいました(笑)。

さて、今後の課題としましては、フォルテは音程がハマるようになりましたが、ピアノ(弱音)は音程が下がってしまうという点です。弱音は、省エネではなく、より支えを意識して歌わなければなりません。フォルテは「解放」、ピアノは「緊張」という意識を持って今後の演奏に生かしていこうと思いました。

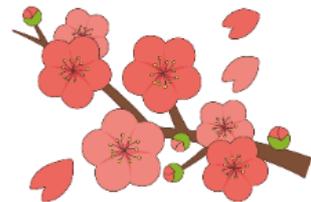
本番にはヴォイストレーナーの嵐田先生も駆けつけてくれて「とても良かったので皆様によくお伝えください」と言って帰られました(生後四ヶ月のお子さんも元気に育っているそうです)。

さて、次は9月21日(日)の定期演奏会です。演目は「みえないことづけ」、
「マドリガル名曲集」、そして今年生誕200年のヨハン・シュトラウス2世の
「ウィーンの森の物語」と「皇帝円舞曲」です。

楽しみながら効率のいい練習してお客様に楽しんでいただけるコンサートにしたいと思いますので、皆さんの自主練習もどうぞよろしくお願いいたします。



♪ 佐藤宏充先生指導の日



♪ ソプラパート練習の日、他のパートも手伝っています



♪ 2/23 本番が近づいてきました



♪ ソリストの藤井様、藪内様も登場です



☆2025年2月23日(日)名曲コンサート当日☆
(ロビーに於いて)

♪ まず始まりは、体操から…♪



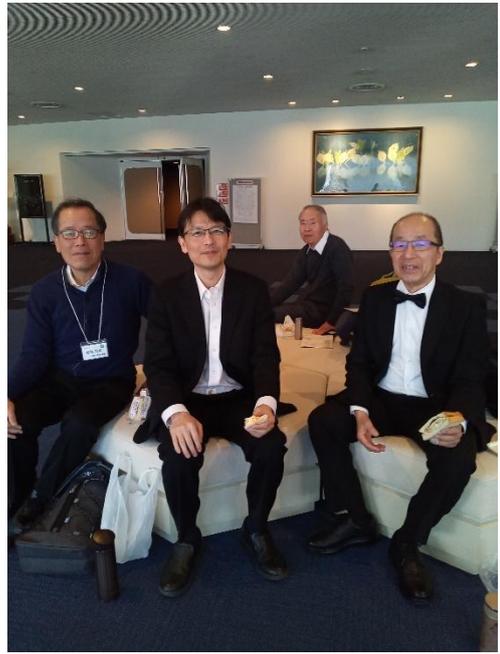


♪ 午前のリハーサルが終わり

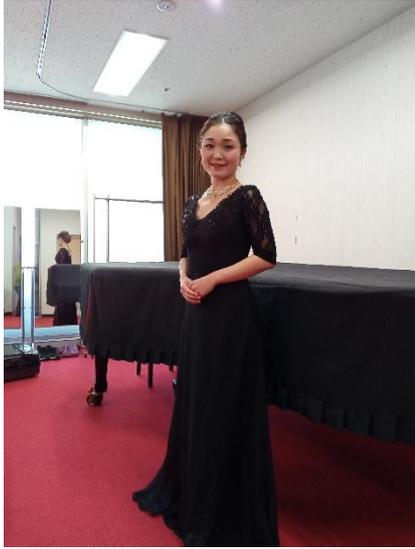


これから昼食 🍱 そして着替えです





♪ソプラノリストの藤井冴様とバリトンリストの藪内俊弥様の楽屋を訪問しました♪



♪着替えも終わり、さてロビーでは…

開場です♪

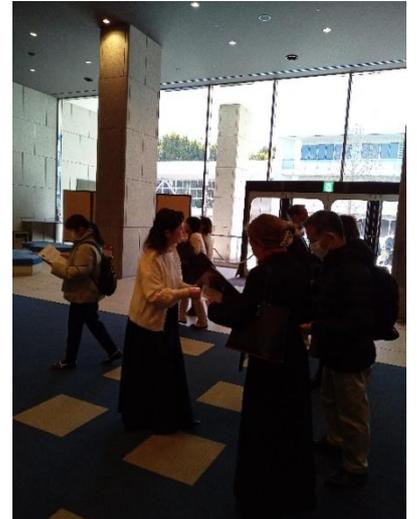




🌸 坂本先生の楽屋にお邪魔しました 🌸



🌸 準備が整いました 🌸



菊地さんのアナウンス 《間もなく開演です》





日本人に宗教は何ですかと問うと、私は無宗教と答える人が多いが、実際は多くの方が、結婚式を神道やキリスト教の司式に基いて行っており、七五三、お正月の初詣等も言うに及ばず多くの方が仏式でお葬式をしており、人生で多く宗教に関わっていますが、残念ながら神道や仏教を自分の信仰として意識している人が少ないのも実態であります。

今回の名曲コンサートと昨年秋の定期演奏会で、フォーレのレクイエムを取り上げましたが、実に多くの合唱団がキリスト教の宗教曲を演奏会で取り上げますが、合唱団員の多くがキリスト教の聖書は読んだことがなく、合唱指導者もキリスト教の知見が少ないのも実態であります。

レクイエムは死者に安らかなれと祈る曲ですが、キリスト教の信者にとっては死は必ずしも悲しいことでなく、神様の所に行き、平安の時、永遠の命を得る幸せでもあるのです。

私は36歳の時、中目黒の恵泉バプテスト教会で洗礼を受けました。私は母がキリスト教の信者であったので幼少の時よりキリスト教会の日曜学校に通っていましたが、妻は私より先に洗礼を受け、娘も息子も続いて同じ教会で洗礼を受けました。

現在は学芸大学にある日本基督教団碑文谷教会の教会員ですが、40歳の頃、15人程の聖歌隊の指揮者を3年間、毎週の日曜日の礼拝で務めました。

多くの日本人は神社やお寺を訪問した際、自然に手を合わせ祈りますが、私はキリスト教信者なので、敬意の意味で頭を下げますが、手を合わせません。

信じていない神様に拝礼することは、キリスト信者にとっては偶像礼拝になり、戒められているからです。

日本のキリスト教信者数は人口の1%に満たない、真に少数と言われています。

キリスト教信者である私は、多くの合唱団が、キリスト教の信仰者でないのにミサ曲やレクイエムを演奏会で多く取り上げるのに何か違和感を感じています。

或る方が、日本の合唱団がキリスト教音楽を好んで歌うのを、貸衣装を着て歌っている感じがすると評したことがあります。

キリスト教で大事な行事はキリストの生誕を祝うクリスマスと、キリストが十字架につけられ死に至り、三日目に蘇ることを覚える復活節があります。

実は、キリストの生誕日は定かではなく、後のローマ教会が冬至の日を当てたものです。復活節は毎年、春分の日後の最初の満月の次の日曜日と定められています。従って、復活節は毎年、日が変わります。

キリスト者にとっては復活節が最も重要で、神様の子、イエスが全ての人の罪を背負い死にて復活することで、人の罪が許されることを意味しており、このイエスの死と復活があることが、キリスト教信仰の大事な根幹であります。

イエスが キリスト、即ち、救い主と称される所以であります。

イエス キリストと言う呼び名は、イエスはユダヤ人にある名前の一つであり キリストは救い主を表すギリシャ語で名前と姓を表したものではありません。

イエス キリストの生涯も、余り定かではなく、神様の啓示をうけ、新しい信仰を説いたのは、33年の生涯の中で長く、最後の3年間と言われています。

ユダヤ教が戒律を守ることを人びとに強く説くのに対し、イエス キリストは神に罪の許し、愛を説き、その時代のユダヤ教の新しい教えでありました。

キリスト教はカトリックとプロテスタントがあり、私はプロテスタントの教会の信者ですが、レクイエムはカトリックの教会の礼拝典礼の言葉を音楽にしたものであり、教会のお祈り言葉を音楽にしたものであります。

ミサ曲ではマリアが歌われますがカトリックでは、祈りの対象でありますプロテスタントではキリストの母であります、祈りの対象でなく教会にはマリアの像も絵画もありません。また、ミサと言う言葉はカトリック教会の礼拝を意味

し、プロテスタント教会では使いません。

お祈りは、神様に向かって祈るものであり演奏会で、ミサ曲やレクイエムを皆様は、演奏会で、観客に向かって歌っている意識かも知れませんが、本当は演奏会でも神様に向かって祈り、歌うべきものであります。

お祈りの言葉は、基本は自分の言葉で、声を出して祈るものであります。

また、祈る時は必ず初めに「イエスキリストの父なる神様」と祈り、その後、平和を祈るとか、苦難の中にある方に癒しを与えて下さいとかを神様に祈り、最後に「このお祈りをイエスキリストの御名により、父なる神様に捧げます。アーメン」と締めくくります。アーメンは心から神様を信じ祈っていることを表しており、「本当に心から祈ります」を意味しています。

イエスキリストは神の子であり神ではありませんので、この様に祈るのです。

ユダヤ教、キリスト教、イスラム教はともに同じ一つの神を神様として信じていますが、本当は、お互いの違いを受け入れ、許しあうことを宗旨としている筈であります。宗教間の争い、多くの殺し合いをしてきたことも歴史の事実であり、今も多くの争い、戦争の火種になっている現実があります。

パレスチナ戦争は長い歴史のなかで、民族と宗教が複雑に絡み合った紛争ですが、日本人がこの紛争を理解するには歴史に学ぶとともに、宗教が人類に何を問うて来たかを学ばないと理解に繋がらないし、真に理解が難しいです。

キリスト教は本当に、人類の救いになっているのか、私自身も多くの機会疑問を抱き、自らに問いかけ続けています。

日本の歴史の中でも、キリスト教は異教として弾圧を受け、多くの殉教者を出しました。また、明治政府が天皇を現人神としたため、キリスト教を初め神社神道以外の宗教は、太平洋戦争の敗戦で占領軍が来るまで苦難の時代が続きました。

合唱団の皆様は、現代の世界の中で、キリスト教の神様を賛美するミサ曲、レクイエムを歌うとき、本当に心から賛美、歌うことが出来るでしょうか。

もし、心からイエスキリストの父なる神様に賛美の心で歌わないのであれば、それは神様への本当の祈りの歌声でないと言わざるを得ません。

美しい曲を心から歌えば、宗教曲であることを難しく考えなくても良いのではと云う意見も耳にします。そうした意見も理解できますが、やはり他の曲とは本質的に違う、宗教に基づいた祈りの音楽であり、弱い立場にある人、苦難の中にある人に寄り添う音楽なのです。

今も戦争により、日々、死者、負傷者、難民が多く出ています。また、日本では災害で毎年、多くの死者、被災者が出ており、苦難の中にいる人がいます。

残念ながら、この合唱団では、過去、東北大震災の際、犠牲者に対し短い黙禱を捧げたことがあります。それ以後は能登の災害も含め一度も犠牲者に対し、哀悼の祈り、黙禱を捧げたことはありません。

この合唱団では、コロナ以前には老人ホーム等の福祉施設に合唱を届けるボランティア活動が盛んでしたが、コロナ後は、真に少ない有志の努力で続けられ、癒しを求めている方に音楽を届けていますが、残念ながら団全体としての活動とは言えない状況です。社会で癒しを求めている人々に美しい合唱の音楽を届けることを基本から見直す必要があるのではないのでしょうか。自分の喜びだけでなく、社会に奉仕し、救いと癒しを祈り、社会に良き祈りの音楽を届ける活動をする団体でありたいものです。

私は、この合唱団がこれからも平和を願い苦難の中にある人々に神様が救いと癒しを与えて下さるよう祈り、信じ、祈りの心を持ってミサ曲、レクイエムを歌って頂ければと思います。

音楽は、弱い人々や苦難の中にある人々に寄り添い、祈りの心で歌って初めて、美しい音楽になると私は信じています。 (アーメン)





名曲コンサートを終えて

ソプラノ 鈴木マリ

モーツァルト、ヴェルディと併せて3大レクイエムと称されるフォーレのレクイエム。モーツァルトの生真面目なレクイエム、ヴェルディの壮大なレクイエムに比べ、フォーレのレクイエムは優しさに満ち溢れているように思います。「苦しみではなく、永遠の至福の喜びに満ちた解放感を表現した」とフォーレは語っているそうです。

伝統的な調性感が崩れていく時代にパリ音楽院の学長に就き、ラヴェルを育てたフォーレ。明治時代を生きた森鷗外の17歳年長です。フォーレのレクイエムは学生時代からよく聴いていましたが、実際に歌うのは今年の定演が初めてでした。今回の名曲コンサートでは、オーケストラと共に演奏することで新たなフォーレの世界を体験することができました。



ご指導の中で佐藤先生が「第5音は高く」と繰り返しおっしゃっていました。坂本先生からも同様のご指導を受けていますが、なかなか実践できないのが悩ましいところです。先日ピアノの調律師の方に「合唱で第5音は高めにと言われます」と話したら、「ピアノは平均律で調律しているから、3度や5度音程はうなりが出ます。より協和する響きを追求するなら、完全5度と短3度は平均律より高め、長3度は低め、です」と即座に返ってきました。短調の第3音は高め、長調の第3音は低め、と呪文のごとく覚え、肝心な時にどっちがどっちかわからなくなって困っていましたが、やっと法則が理解できてスッキリです。

名曲が終わった翌週から秋の定演に向けた練習が本格的に始まりました。ウイナ・ワルツ、マドリガル、現代に生きる日本の作曲家の作品など、時代背景も言語も違う曲の数々。どれも難しい曲ばかりでハードルが高いです。これから9月までに少しずつ馴染んでいって、フォーレのように暗譜で歌えるところまでゆっくりと身体と五感に染み込ませていけたらいいなと思っています。



テナー 吉岡隆

昨年12月初め、12年ぶりに合唱団に復帰し、それからわずか2か月半ほどで、フォーレの「レクイエム」を暗譜して歌うのは大きな挑戦だったけれど、坂本先生や皆さんから暖かい支援をいただき、なんとか歌いきれたことに、深い感謝と喜びを感じています。当日来場してくれた友人たちからは、とても素晴らしい音楽会だったと絶賛の声をききました。今年1月で90歳、幸いにして、年齢のわりには体力・声力はまだそれほど衰えてはおらず、これからも懸命に努力してまいりますので、どうぞよろしくご支援・ご指導のほどお願いいたします。



「写真提供:フォトライフ」





名曲コンサートに参加して

アルト 岡崎美恵子

世田谷区民合唱団に入団し、ホールで歌わせていただくのは2回目となりますが、今回の「名曲コンサート」はオーケストラ演奏とともに歌えると伺い、初めての経験だったので、オケ合わせの日から、とても楽しみにしておりました。そして、その期待は、全く裏切られることはありませんでした。

本番までの3日間は北風が強く凍えるような寒さではありましたが、それらをも吹き飛ばすほど、いつもとは違う非日常が味わえた3日間でした。広い人見記念講堂のステージに立たせていただき、素晴らしい指揮者・ソリスト・オーケストラという音楽空間の輪の中に、この私も入り込んでいる…と思うだけで、思わず笑みがこぼれてくるほどでした。本番も然ることながら、オケ合わせ・リハーサルと、指揮者の佐藤先生のご指導で、舞台上の全員が一丸となって音楽を作りあげていく過程が、とても興味深かったです。

本番は言うまでもなく、その上に大勢のお客様にお越しいたき、聴いていただきましたので、暗譜した練習の成果を発揮すべく、大好きなフォーレのレクイエムを、気持ちを込め、ホール二階の奥に向けて、思い切り歌わせていただきました。とても爽快でした。

お客様にフォーレの「やすらぎ」が、どれほど届いたのかは分かりませんが、私としては、夢のようなとても贅沢な時間でした。

熱心に指導してくださった先生方、運営に携わり導いてくださった団員の皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



レクイエムに魅せられて

テナー 中村秀夫

声を出すことで免疫のタンパク質量が増加する、横隔膜が上下して内臓の働きが良くなる、神経伝達物質が出て気分が高揚しストレスが軽減する、酸素を多く取り込むことで血液の循環が良くなり脳の働きが活性化され注意力、集中力、記憶力が向上するなどなどコーラスには縁が無かったのですが体調管理に良いと思い15年ほど前にハケ岳合唱団に入団しました。練習は毎日曜日地元の方、東京、松本、名古屋などから大勢が参加します。毎年10月に開催されるハケ岳音楽祭で最初に唄った曲はブラームスの“ドイツレクイエム”です。その後ハケ岳音楽祭と世田谷名曲コンサートで“第九”を、オラトリオ合唱団でハッセの“レクイエム”を唄いました。昨年11月に世田谷区民合唱団に入団しました。

世田谷区民合唱団は環境に恵まれています。練習はほとんどがホールの舞台に立って声が出せる幸せ、どの練習場所にも一時間以内で行くことができます。何と言っても世田谷フィルハーモニー管弦楽団の素晴らしい演奏(人見記念講堂)で唄えます。半数以上の方が10年以上在籍というのも素晴らしいですね。テノールに初挑戦しました。最初高音域は声がかすれて息が続きませんでしたが息の流れを止めずに音を保って唄うように指導いただきました。肺活量が少なくなってきたのでロングブレス呼吸法や早足歩きで脈拍数を増やし長く息を吐き出す訓練も楽しいものです。ハッセの演奏会のすぐ後でしたのでフォーレのゆったりした感じに慣れるのに苦労しました。ハッセの場合はテンポが速く歌詞とメロディーが同時に頭に入りますがフォーレはゆっくりしたテンポなので歌詞が覚えられず壁に歌詞を張って暗記しました。ロズさんでいるといつの間にかフォーレがハッセになつたりして苦笑です。“IN PARADISUM”の17小節目から49小節目あたりが気に入っています。しあわせな安らかな気持ちになります。坂本先生始め団員の皆様のおかげで何とか本番までに追いつけました。感謝、感謝です。有り難うございました。



フォーレのレクイエム「名曲コンサート」に参加して

バス 山崎幸雄

この曲は所謂3大レクイエムの中でも、とりわけ優しさや美しさを表現することが大切な曲であると理解していました。そのためにはハーモニーが重要ですが、男声は全体の四分の一と非常に少なく、余程音量が客席まで届くように歌わないと混声合唱らしく聞こえないのではないかと不安を感じていました。実際、その前の定期演奏会の出来は(私は長期療養のため参加が適わなかったのですが)配信された録音を聴く限り、本来の区民合唱団らしい美しいハーモニーとは言い難いものでした。今回は暗譜という指示もあり、加えて私は団員皆さんより大きく遅れて昨年11月下旬から練習に参加したこともあって少々不安を感じていましたが、この曲は昔一度演奏しており、やってみると意外と覚えていたので少し安堵しました。無論、参加する以上は戦力になるようにしたいので上達にも努めましたが、そんな折、神保委員長がPLとして手配されたバスパートの自主練習がどれほど役立ったか知りません。また毎回3時間の練習にピアノ伴奏でお付き合い下さった鈴木マリさん、さらに練習しやすいようにとソプラノ、アルト、テナー有志の皆さんと一緒に参加されてハーモニーを作って下さったこと…これらのことは本当に有り難く、この場をお借りして改めて関係の皆様へ感謝申し上げます。

自信を持たせるためか、坂本先生は定演の時よりも随分と上達したとおっしゃって下さいましたが、指揮者の佐藤先生からはCDを真似して上手く歌おうと思うな、聴衆に向かい一生懸命取り組んでいる熱が伝わるような演奏をしなさい — との注意が印象に残りました。これまでの練習会場とは異なり、発声時の口の形にも注意して言葉と音が大ホールでも明瞭に伝わるような歌い方を心がけねば — と改めて自分なりに思ったのですが、どこまで達成出来たかは分かりません。

定期練習までは全力で歌いましたが、人見に来てからはむしろ気持ち抑え気味に冷静を保って声音の質に注意しながら歌うように努めました。果たして客席から聴いた合唱全体の印象はどうだったのか? 来てくれた知人たちは良かった!と言ってくれますが、演奏は美しく響いたでしょうか? ただ、歌っている間も何処からか、別の私がそれを見つめ、聴いているような感覚を覚え、割と冷静に演奏を楽しんでいる自分がいました。

演奏は瞬く間に終わってしまいましたが、ある種の達成感と同時に愛着を感じるようになったこの曲をもっと歌い続けていたい — 再びこの合唱団でこの曲を歌う機会はもう無いかも知れないと思うと終わった瞬間、何故か寂しく感じたものです。



アルト 山崎佐知子

「世田谷区民合唱団の声を届けましょう」佐藤先生の言葉を胸に刻み、聴きに来てくださった皆様に向けてレクイエムを歌うことができました。言葉の意味をとらえて、私なりにそれを大事に歌おうと心がけて練習し演奏会に臨みました。

オーケストラと歌うのは、大学時代から数えて実に40年ぶり。新鮮かつ、とても楽しい時間でもありました。一曲目のD音が厳かに鳴ったときから終曲まで、全曲を通して、物語が進むような空気感、風景でした。

練習から演奏会まで充実した日々を過ごし達成感を味わうことができました。ご指導くださった佐藤先生、坂本先生、西谷先生に心から感謝申し上げます。坂本先生のステージ上での笑顔のごあいさつに、きっと一番心を砕いて下さっていたのだろうと感じました。

そしてフィルハーモニーの皆様、ありがとうございました。私は「運命」の4楽章が好きで、素晴らしい演奏に感動しました。合唱団の皆様、入団後一年にも満たない私ですが、いつも温かく接していただきありがとうございます。共に同じ時間を共有でき嬉しかったです。「私たち合唱団は、歌うことがとても好きです」と聴いてくださった方たちに伝わったのではないのでしょうか。すてきな時間でした。ありがとうございました。



バス 安川喜久夫

2月23日の「せたがや名曲コンサート」は本当に寒い一日でした。しかも三連休の中日。そんな中ご来聴くださった大勢のお客様には感謝しかありません。

また、ご指導頂きました佐藤先生、坂本先生、西谷先生にも厚くお礼申し上げます。そして一緒に歌った団員の皆さま、心地良くお疲れになったことと拝察します(笑)

扱、昨年6月のDialogにも書きましたが、フォーレのレクイエムは学生時代にレコード(アンドレ・クリュイタンス指揮、パリ管弦楽団、バリトンがフィッシャー=ディスカウ)で聴いて以来ずっと大好きな曲。2016年には以前所属していた合唱団でも歌いました。

あの天上に誘われるが如くの旋律と和音の変化に魂を持って行かれそうになる感覚が何とも言えず…

それが、本番直前のリハーサルで、指揮者の佐藤先生が「皆さんはアマチュア。CDで聴くように上手く歌おうとするな。それが聴きたいのであれば、お客様はこの演奏会にはいらっしやらない。自分はこれ程歌うことが好きなんだという気持ちが伝わるようにしっかり歌え！」と言われました。

え〜?? そうなの?? 自分にとっては価値観が180度変わる話でした。

でも、それで吹っ切れて、聴いてくださっているお客様に精一杯の歌声をお届け出来たのではないかと考えています。自己満足?? (笑)

やはり聴き手と演奏者って根本的に立場が違うんですね。あの広いホールでフルオーケストラと一緒に歌った時、曲全体が聴き手にどう伝わっているのかが大事と悟りました。勿論、音程・音質、リズムが正しいことが前提ですが…(笑)

それで思い出したのが、「題名のない音楽会」放送60周年を記念して企画された18歳以下の子供達による「未来オーケストラ」です。指揮は今や世界の第一線で活躍されている山田和樹さん。練習風景と本番が3週連続で放映され、本番は私達の演奏会の前日、2月22日でした。或いは視聴された方も多いのではないかと思います。

そこで山田和樹さんが子供達に音楽の楽しさや共に演奏する喜びを伝えるために語った短い3つの言葉をご紹介します。

曰く、「キャンバスからはみ出る音がほしい」

「自分にしか出せない音を出す」

「どンドントライすることが大事。それをずっと止めないでほしい」

どうでしょう? 無論、楽器と声は違うところがありますが、本質は佐藤先生が仰ったことと同じではないでしょうか?

こちらのオケは18歳以下ですが、1と8をひっくり返した位(失礼)の合唱団にもそのまま通用する名言だと思いました!!

これからも歌うことの楽しさや共に歌うことの喜びを皆さまと共有していきたいと念じています。





ソプラノ 金森真理子

大好きなフォーレのレクイエムを、オーケストラの方々と一緒に歌える機会があると知り、かねてから興味を持ち続けていた世田谷区民合唱団に思い切って応募しました。12月の末に入団して本番まで2か月たらず、団員の皆さまは定期演奏会で既に1回歌っていらっしやるとのこと、今回は暗譜とお聞きし、気持ちはあせりながら、少しの不安とそれを上回る期待を持って新譜に取り組みました。やはり、一番大変だったのは暗譜とラテン語の発音、意味の習得でした。楽譜を覚え慣れない言葉を正確に発音し、その意味を理解すること。3つの要素が重なり四苦八苦いたしました。坂本先生の丁寧なご指導と、共に歌う皆様の温かい励ましにより、すこしずつ前に進むことができました。

本番指揮の佐藤先生から、フォーレのレクイエムは穏やかで静かなイメージを持たれているが決してそうではなく、ドラマチックに、“P”や“PP”も芯のある声で歌うよう指示がありました。死を悲しいだけでなく安らかなものとして受けとめる、フォーレの想いを感じ取りました。

本番の世田谷フィルハーモニー管弦楽団との共演では、オルガンや弦の美しい調べにあわせ、圧倒的な音の厚みがあり、また、人見記念講堂は想像よりとても広く、自分の声が2階の末席まで響くことを意識して臨みました。ソプラノソロのピエ・イエズからアニュス・デイ、リベラ・メ、イン・パラディスムへと続く光に包まれる様なゆらぎと美しい流れ、そして、全員で同じ旋律を歌うユニゾンの部分は、それぞれのパートが重なりあいひとつの大きなうねりとなって響き渡り、一期一会のかけがえのない瞬間を得ることができました。

短い期間で、たくさんのことを学び、共に歌った皆様と、こんなに素敵なお曲を歌えたこと、本当に幸せです。

諸先生方、団員の皆様、いつも的確な伴奏を下さったピアニストの先生、世田谷フィルの皆様、ソリストのお二人、携われたすべての方々、お客様に感謝いたします。

これからも歌を通して感動を分かちあえるよう精進してまいります。



名曲コンサート感想文

アルト 三瓶信子

私が世田谷区民合唱団仲間に入って初めての名曲コンサート。世田谷フィルハーモニー管弦楽団との初めての演奏。練習していたピアノとは違うだろう演奏に楽しみでもあり不安でもあった。

金曜日のオケ合わせ、ゲネプロ、当日のリハーサル。合わせ初日のコーラスは兎も角、失礼ながらオケも大丈夫かあ？と感じたものだけれど流石に世田谷フィルと区民合唱団！日と共にコーラスの不安部分は減じて行き、フィルの完成度も上がっていった。

フォーレのレクイエムは一つだけではない。マエストロの数だけ曲がある。演奏するオーケストラ、コーラスの数だけ演奏はある。私たちはマエストロ佐藤と世田谷フィルと区民合唱団のレクイエムを作り上げるのだ。

マエストロ佐藤はフォーレのレクイエムは微笑みのレクイエム、安らぎのレクイエムだと仰った。死んでいく人が冥府から、ライオンの口から逃れられるように願い、安息を永遠の光を願い、天国に幸せに迎え入れられるように祈る。だから微笑を忘れずに。優しく微笑みながら歌い、怒りながら歌う。

声は見ている方に飛んでいく。だから楽譜に向かって歌うのではなく(今回は暗譜だったが)指揮者を見つめて歌うのではなく、ホールの後方上の方に向けて歌う。そうすればホールを鳴らすことができるのかしら。今回私たちはホールを鳴らすことは出来たのかしら？客席で聴いてみたかった。

聴いてくれたコーラスの先輩は9月の定期演奏会にも来てくれていて、「ずーっと良かった」と言ってくれた。けれど、レクイエムを知らない友人は「ソロの人は流石プロだね、何を言っているのか分からないけれど言葉だという

が分かった」・と言った。ということはコーラス部分は言葉だと分からなかったっていう事？ まだまだだな、私たち。上達の余地がある。

今回の私の並び位置はほとんど中央で、私の前はソリスト。見晴らしがよすぎて怖い。誰も見ていないと分かっているても不思議な動きをしている人は目に付くもの。変な目立ち方はしたくない。自意識過剰ではあるけれど、ふらつかないように無意味な動きをしないように気を付けた。お陰様で山台から落ちる事もなく、曲を度忘れする事もなく無事に終わった。

メンバーと声を合わせて歌う。コーラスは一人ではない。それだから楽しい、やめられない。



せたがや名曲コンサートに参加して

ソプラノ 山鹿祐子

皆様、大変お疲れさまでした。

そして、ご指導頂きました佐藤宏充先生、坂本秀明先生、また運営にかかわってくださった委員の方々に心から感謝申し上げます。

今回のレクイエムは、とても素晴らしかったと思います。すべてがかみ合ったといいますか、絶好調の高みで演奏会を終えることが出来、去年の定期演奏会のリベンジが出来たのではないのでしょうか？

私は入団以来2回目の演奏会でしたが、特に人見記念講堂のリハーサルに入ってから団全体の上達ぶりに、大変驚きました。男声のピッチや音質が毎回格段に良くなり、アルトの柔らかく美しい響きに磨きかけられていきました。とりわけ男声は4声に分かれるところもあって、むずかしかったと思いますが、最後のエルサレムの繰り返しのところは、ソプラノを歌っていて、和声のあまりの美しさに涙が出そうになりました。

私自身は、毎回先生方から繰り出される改善点でぐちゃぐちゃになった譜面と格闘し、暗譜のプレッシャーに押しつぶされそうになりながら、自身の限界に挑戦する毎日でした。同じことを何回も指摘されているのに、なかなかできないのが情けなかったです。けれども、皆様の実力と頑張り、特にソプラノの皆様は大いに助けられ、なんとか無事終えることが出来、感謝しております。

一番心に残っているのは、直前になっての、佐藤先生からのお話(お客様はふわっとして上手なレクイエムでなく全力で一生懸命な演奏を求めていると、それに関連して神保団長からご紹介頂いた山本直純先生のお話(中途半端に上手な合唱団は掃いて捨てるほどある、ひとりひとりが思いを込めた演奏を)です。

そうだ、苦勞して暗譜練習する中で培ってきた今自分が感じているレクイエムを、心を込めて素直に表現すれば、上手でなくても良いんだ、という思いで、こうして歌える環境にいることの幸せをかみしめながら、のびのび歌えました。

これからも、それぞれ異なる条件のもとで様々な個性と想いがあつまつた世田谷区民合唱団だからこそできる表現を重ね、この合唱団だから聴きに行きたい、と思って下さるファンの方を増やしていけたら最高です。





今年も団員のみ(元団員 1 名含む)で歌う、盛大なコンサートが行われました。
合唱団参加者 99 名、内訳はソプラノ 44 名、アルト 29 名、テノール 13 名、ベース 13 名での演奏、
かなりの迫力です。来客数もおよそ 1,425 名で、始まる少し前に会場を見ると満席に近い状態でした。



☆多ボランティア企画会からの報告です☆多

★2024 年 10 月 24 日(木) デイホーム弦巻を訪問しました。

12 時 10 分よりリハーサル、そして演奏は 13 時 40 分～14 時 40 分で休憩なしです。

いつものように、秋山美子さんにピアノをお願いし、指揮者は元団員の添田みつえさん、

第 1 部は「世界 1 周旅行」

オープニング、‘花のまわりで’を歌いながら入場、そして元団員の矢口はるみさんのご挨拶、

代表の篠田新治さんのご挨拶、運営委員長の神保仁士さんのご挨拶で始まります。

キャビンアテンダントに扮した猪瀬みつこさんの案内で、シートベルトを締め、日本を出発です。

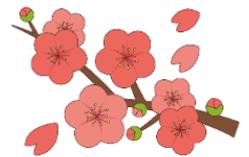
‘ふじの山’を見下ろし、ロシアへ、‘カチュウシャ’、スイス‘エーデルワイス’、パリ‘おおシャンゼリゼ’、イタリア‘サンタルチア’そしてアメリカ‘草競馬’と続きます。草競馬は、16 フレーズを一人 1 フレーズずつ、自分で考えた演技を取り入れて歌います。走ったり、くるくる回ったり、追っかけたり、お尻で跳ね飛ばしたり、終わりの 8 小節は、みんなでスキップしながら腕を組んだりして、回り回り歌います。中々の体力消耗曲です。

今回のソロタイムは、‘マイウェイ’篠田さん、オペラ;ドン・ジョバンニより‘手を取り合って’日本語バージョンで神保さん、添田さんです。

第 2 部は、一緒に歌いましょうコーナー

‘大きな古時計’‘この広い野原いっぱい’‘旅愁’‘高原列車は行く’‘上を向いて歩こう’

ここで終了、代表お別れ挨拶後‘今日のひととき’……さようなら～～～



★10 月 31 日(木)に喜多見からバスで行く、そんぼの家成城南を訪問しました。

12 時 30 分集合で、演奏は 14 時～15 時です。

ソロタイムでは、末永裕一さんが‘愛の賛歌’をしつとりと歌いました。

★11 月 12 日(火)に梅が丘から等々力に行く東急バスの中程にある、デイホーム深沢を訪問しました。12 時集合で、演奏は 13 時 30 分より 14 時 30 分です。

ソロタイムでは、猫の二重唱～メモリーを葛西さん、篠田さん、添田さん、名倉の 4 人で歌い演じました。

★11 月 29 日(金)、等々力から徒歩 10 分程のデイホーム等々力共愛を訪問しました。

ソロタイムは篠田さんのマイウェイそして添田さん、神保さん、小林さんが演じるジョバンニ日本語バージョンです。

★12 月 13 日(金)には、ニチケアセンター豪徳寺を訪問しました。

施設前に 12 時 20 分集合で、演奏は 14 時から 14 時 50 分の 50 分間です。

こちらでは、第 2 部一緒に歌いましょうコーナーの‘旅愁’から‘かあさんの歌’へ季節に合わせ曲目変更です。

☆終了後、踏切を渡ったすぐ近くにあるデニーズで、親睦会を行い楽しい時間を過ごしました。

おたコンの練習は月に一度、

日程調整をしながら 多くが 15 時～17 時で行っています。

皆様是非ご参加ください。



《編集後記》

2025年2月の名曲コンサートも盛大に幕を閉じました。
団員の皆さま、大変お疲れ様でした。
そしていろいろな役を受持ち、ご協力されたみなさま、本当にお疲れ様でした。
いいコンサートとなった事、大変嬉しく思います。
私は昨年この場でコミュニケーション委員長のお話を頂きました。
たった1年でしたが、いろいろな事を学ばせて頂きました。
諸事情で、1年でコミュニケーション委員会から降ろさせて頂きます。
団員の皆さまには、たくさんの原稿の願いを受けて下さりありがとうございました。
今後も引き続きよろしくお願ひ致します。

名倉由美子